

# 第94回定時株主総会の招集に際しての 電子提供措置事項

## ■ 事 業 報 告

業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

## ■ 連結計算書類

連結株主資本等変動計算書

連結注記表

## ■ 計 算 書 類

株主資本等変動計算書

個別注記表

第94期（2023年2月1日から2024年1月31日まで）

# モロソフ株式会社

上記事項につきましては、法令及び当社定款第16条第2項の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面（電子提供措置事項記載書面）への記載を省略しております。

## 業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について、取締役会で決議した内容および当事業年度の運用状況の概要は次のとおりであります。

### 1. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）構築の基本方針

#### (1) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ① 取締役、従業員の職務執行の行動規範として、「行動指針」「企業倫理ガイドライン」を定め、周知を図る。
- ② 社外取締役を置き、取締役の職務執行に対する監督機能を強化する。
- ③ 法令、社内規定等の違反を報告するために通報者の保護を徹底した窓口を社内外に設け、違反等の早期発見に努める。
- ④ 弁護士や警察と連携し、反社会的勢力との関係排除に努める。
- ⑤ 内部監査部門を設け、監査等委員会と連携して内部監査を実施する。

#### (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ① 社内規定を定め、取締役の職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体に記録し、適切に保存・管理する。
- ② 情報管理に関する規定を定め、情報セキュリティを適切に管理する。

#### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① リスク管理に関する規定を定め、当社および子会社のリスクを網羅的・総括的に掌握し、リスク管理の全社的推進とリスク管理に必要な情報の共有化を図るために、取締役会直轄のリスクマネジメント委員会を設置し、リスクの特性に応じ適切に対応する。
- ② 経営に重大な影響を及ぼす不測の事態を想定して「危機管理マニュアル」を定め、緊急事態に迅速に対応するとともに、その予防策を講じるよう努める。

#### (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 「組織および職務分掌規定」「職務権限規定」において、適正な業務組織と分掌事項、各職位の責任・権限を定め、効率的な業務執行を行う。
- ② 中期経営計画および各年度予算を策定し、これを軸とした計画・実行・評価のマネジメントサイクルを確立する。
- ③ 全社的な情報システム基盤を常に整備し、経営情報の正確かつ迅速な把握と伝達に資するとともに、業務の効率化を図る。

#### (5) 当社および子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ① 「コンプライアンス規定」を定め、当社および子会社のコンプライアンス体制の維持・向上を図る。また、当社内部通報窓口へは、子会社使用人等からの通報も可能とする。
- ② 「子会社管理規定」および子会社の「職務権限規定」を設け、子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するとともに、子会社の業務運営における重要な事項が当社に報告される体制を整備する。

#### (6) 監査等委員会の職務を補助すべき使用人に関する事項、および当該使用人の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項、ならびに当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- ① 監査等委員会の職務を補助すべき使用人は置かないが、監査等委員会から要請がある場合には、内部監査部門が補助することとし、その要請された業務については取締役（監査等委員である取締役を除く。）から指揮命令を受けないことを、必要な規定に定める。

- (7) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）および使用人が監査等委員会に報告をするための体制、その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 当社および子会社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）、従業員は、定款・法令に違反する事実、会社に著しい損害を与える恐れのある事実を発見したときには、当社の監査等委員会に報告するとともに、監査等委員会から業務執行に関する事項の報告を求められたときは、速やかに報告するよう、またその報告をしたことを理由として不利な取扱いを行わないことを規定に定める。
  - ② 監査等委員会は内部監査部門と内部監査の結果等について適宜情報交換を行う。
  - ③ 監査等委員に取締役会以外の会議で実質的に経営の重要事項が審議される会議について出席する権限が与えられる等重要な情報を把握できる措置を採る。
  - ④ 内部通報窓口への通報内容は、監査等委員会に報告する。
  - ⑤ 監査等委員がその職務の執行について生ずる費用の前払いまたは償還等の請求をしたときは、担当部署において審議の上、当該請求に係る費用または債務が当該監査等委員の職務の執行に必要なと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

## 2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の運用状況の概要

- ① 取締役会を9回開催し、法令等に定められた事項や経営にかかわる重要な事項を決定するとともに、取締役間の意思疎通を図り相互に業務執行を監督しました。
- ② 監査等委員会を9回開催し、監査方針や監査計画を協議決定するとともに、取締役の職務執行の適法性および妥当性について監査、監督しました。
- ③ 経営管理会議を6回開催し、中期経営計画および各年度予算の執行状況を評価しました。
- ④ リスクマネジメント委員会を2回開催し、網羅的に掌握した当社全体のリスクに対する管理状況および次年度の活動方針について確認しています。また、経営に重大な影響を及ぼす不測の事態を想定して「危機管理マニュアル」を定め、緊急事態に迅速に対応するとともにその予防策を講じるように努めています。
- ⑤ 内部統制会議を開催し、財務報告に係る内部統制システムの整備・運用状況を評価しました。
- ⑥ 監査等委員会と内部監査部門との情報交換会を5回開催し、内部監査の結果等について適宜情報交換を行っています。
- ⑦ 法令、社内規定等の違反を報告するための通報窓口を社内および社外に設け、通報者の保護を徹底するとともに違反等の早期発見と是正に努めています。

## 連結株主資本等変動計算書

( 2023年2月1日から  
2024年1月31日まで )

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2023年2月1日残高	3,737,467	3,918,352	10,688,523	△112,182	18,232,161
連結会計年度中の変動額					
自己株式の取得				△459,797	△459,797
自己株式の処分		4,199		6,421	10,620
連結範囲の変動			199,567		199,567
剰余金の配当			△457,395		△457,395
親会社株主に帰属する当期純利益			1,715,689		1,715,689
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	4,199	1,457,861	△453,376	1,008,684
2024年1月31日残高	3,737,467	3,922,552	12,146,385	△565,558	19,240,846

	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額 合計	
2023年2月1日残高	474,108	290,138	-	△416,193	348,054	18,580,216
連結会計年度中の変動額						
自己株式の取得						△459,797
自己株式の処分						10,620
連結範囲の変動						199,567
剰余金の配当						△457,395
親会社株主に帰属する当期純利益						1,715,689
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	12,553	-	86,331	32,077	130,963	130,963
連結会計年度中の変動額合計	12,553	-	86,331	32,077	130,963	1,139,648
2024年1月31日残高	486,662	290,138	86,331	△384,115	479,017	19,719,864

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結注記表

### 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

#### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社：2社 株式会社鎌倉ニュージャーマン、VISUAL HONG KONG LIMITED

当連結会計年度より、重要性が増したためVISUAL HONG KONG LIMITEDを連結の範囲に含めております。

#### 2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

#### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちVISUAL HONG KONG LIMITEDの決算日は3月31日であり、連結計算書類の作成にあたっては連結決算日（1月31日）現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法によっております。

##### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

製品、原材料、仕掛品

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

##### (3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 5～17年

工具、器具及び備品 3～15年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

##### (4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

売掛金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額基準により計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額を、発生翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異の会計処理方法

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(6) 収益及び費用の計上基準

当社グループの事業は主として菓子の製造及び販売であり、一般消費者及び全国主要百貨店等を顧客とし、主に自社工場で製造した製品を顧客に販売することを履行義務としております。

このような製品の販売については、製品の引渡時点又は検収時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されることから、製品の引渡時点又は検収時点において収益を認識しております。ただし、製品の引渡時点又は検収時点の把握が困難であり、かつ、出荷時から製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の期間である取引の場合には、出荷日に収益を認識しております。

また、協賛金、リベート等の顧客に支払われる対価は、顧客から受領する別個の財又はサービスと交換に支払われるものである場合を除き取引価格から減額しており、取引の対価は、履行義務の充足時点から概ね2ヶ月以内に受領しているため、当該顧客との契約に基づく債権について重要な金融要素の調整は行っておりません。

(7) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当連結会計年度に係る連結計算書類にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

(1) 固定資産の減損（国内子会社 株式会社鎌倉ニュージャーマン）

当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

（単位：千円）

科目名	当連結会計年度
有形固定資産及び無形固定資産 （株式会社鎌倉ニュージャーマン）	684,696
減損損失（株式会社鎌倉ニュージャーマン）	—

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 算出方法

当社グループは、主に継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分別に資産をグルーピングし、営業活動から生じる損益が継続してマイナスの場合に減損の兆候を認識しております。減損の兆候が認識された場合、資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較し、帳簿価額が割引前将来キャッシュ・フローを超過する場合に、減損損失を認識します。割引前将来キャッシュ・フローは、固定資産の経済的残存使用年数に相当する期間の事業計画を基礎として見積っております。

② 主要な仮定

当連結会計年度末において、洋菓子製造販売事業を営む連結子会社株式会社鎌倉ニュージャーマンは、新型コロナウイルス感染症等の影響による業績落ち込みからの回復遅れや、原材料の高騰等により、継続して計画を下回る営業損失が計上されており、減損の兆候を認識しておりますが、割引前将来キャッシュ・フローが帳簿価額を上回っているため、減損損失は認識しておりません。

割引前将来キャッシュ・フローは、製品販売価格の見直しや原価改善策等を織り込んだ中期計画を基礎とし、主要な資産である土地の正味売却価額については不動産鑑定評価基準に基づいて算定した価額によっております。

③ 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

将来キャッシュ・フローの基礎となる中期計画及び土地の正味売却価額は経営者による最善の見積りにっておりますが、将来の不確実な経済条件の変動等の結果によって、翌連結会計年度の連結計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

連結貸借対照表に関する注記

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

担保に供している資産

建物	661,466千円
土地	1,691,785千円
投資有価証券	218,700千円

担保に係る債務

短期借入金	1,180,000千円
-------	-------------

2. 有形固定資産の減価償却累計額 14,531,066千円

3. 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（1998年3月31日公布法律第34号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当分を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（1998年3月31日公布政令第119号）第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に、時点修正による補正等合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日

2002年1月31日

再評価を行った事業用土地の期末における時価の合計額と再評価後の帳簿価額との差額 170,925千円

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 7,088,452株

### 2. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年4月25日 定時株主総会	普通株式	457,395	65	2023年1月31日	2023年4月26日

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

2024年4月25日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案する予定しております。

配当金の総額 677,898千円

1株当たり配当額 98円

基準日 2024年1月31日

効力発生日 2024年4月26日

なお、配当原資については、利益剰余金とすることを予定しております。

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金調達については銀行等金融機関からの借入によっており、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、定期的な信用状況の把握によりリスクの低減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、格付けの高い債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

営業債務である買掛金や電子記録債務は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であります。

営業債務や短期借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、月次で資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年1月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
投資有価証券	1,376,348	1,376,348	—
資産計	1,376,348	1,376,348	—

(注1) 現金及び預金、売掛金、有価証券のうちコマーシャルペーパー、買掛金、電子記録債務、短期借入金については、現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 市場価格のない株式等は「投資有価証券」に含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度 (千円)
非上場株式	119,785

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融資産の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	1,376,348	—	—	1,376,348
資産計	1,376,348	—	—	1,376,348

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されるため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

### 収益認識に関する注記

#### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

報告セグメント	金額（千円）
洋菓子製造販売事業 計	33,057,407
(内訳)	
干菓子群	23,825,829
洋生菓子群	8,461,318
その他菓子群	770,259
喫茶・レストラン事業 計	1,876,440
顧客との契約から生じる収益	34,933,847
その他の収益	—
外部顧客への売上高	34,933,847

#### 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等 4. 会計方針に関する事項 (6) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

### 1 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	2,850円79銭
2. 1株当たり当期純利益	244円64銭

## 株主資本等変動計算書

( 2023年2月1日から  
2024年1月31日まで )

(単位：千円)

	株 主 資 本						
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		
		資本準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他 利益剰余金	利益 剰余金 合計
2023年2月1日残高	3,737,467	3,918,352	-	3,918,352	614,883	10,079,366	10,694,250
事業年度中の変動額							
自己株式の取得							
自己株式の処分			4,199	4,199			
剰余金の配当						△457,395	△457,395
当期純利益						1,806,358	1,806,358
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)							
事業年度中の変動額合計	-	-	4,199	4,199	-	1,348,963	1,348,963
2024年1月31日残高	3,737,467	3,918,352	4,199	3,922,552	614,883	11,428,329	12,043,213

	株 主 資 本		評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
2023年2月1日残高	△112,182	18,237,888	474,108	290,138	764,247	19,002,136
事業年度中の変動額						
自己株式の取得	△459,797	△459,797				△459,797
自己株式の処分	6,421	10,620				10,620
剰余金の配当		△457,395				△457,395
当期純利益		1,806,358				1,806,358
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)			12,553	-	12,553	12,553
事業年度中の変動額合計	△453,376	899,786	12,553	-	12,553	912,340
2024年1月31日残高	△565,558	19,137,675	486,662	290,138	776,801	19,914,476

(注) その他利益剰余金の内訳

	その他利益剰余金			
	固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	合計
2023年2月1日残高	156,611	2,300,000	7,622,755	10,079,366
事業年度中の変動額				
剰余金の配当			△457,395	△457,395
当期純利益			1,806,358	1,806,358
事業年度中の変動額合計	—	—	1,348,963	1,348,963
2024年1月31日残高	156,611	2,300,000	8,971,718	11,428,329

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

市場価格のない株式等 移動平均法による原価法によっております。

#### 2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっており、評価方法は次のとおりであります。

製品、原材料、仕掛品 総平均法

貯蔵品 最終仕入原価法

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～38年

機械装置 5～17年

工具器具備品 3～15年

無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### 4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

売掛金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額基準により計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

#### 5. 収益及び費用の計上基準

当社の事業は主として菓子の製造及び販売であり、一般消費者及び全国主要百貨店等を顧客とし、主に自社工場で製造した製品を顧客に販売することを履行義務としております。

このような製品の販売については、製品の引渡時点又は検収時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されることから、製品の引渡時点又は検収時点において収益を認識しております。ただし、製品の引渡時点又は検収時点の把握が困難であり、かつ、出荷時から製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の間である取引の場合には、出荷日に収益を認識しております。

また、協賛金、リポート等の顧客に支払われる対価は、顧客から受領する別個の財又はサービスと交換に支払われるものである場合を除き取引価格から減額しており、取引の対価は、履行義務の充足時点から概ね2ヶ月以内に受領しているため、当該顧客との契約に基づく債権について重要な金融要素の調整は行っておりません。

### 貸借対照表に関する注記

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務	
担保に供している資産	
建物	623,411千円
土地	1,281,385千円
投資有価証券	218,700千円
担保に係る債務	
短期借入金	1,090,000千円
2. 有形固定資産の減価償却累計額	14,366,240千円
3. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務	
短期金銭債権	130,735千円
短期金銭債務	917千円
長期金銭債権	850,000千円

### 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	
営業取引による取引高の総額	277,492千円
営業取引以外の取引高の総額	123,096千円

### 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数	
普通株式	171,117株

### 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	29,051千円
賞与引当金	63,010千円
未払事業所税	3,985千円
未払事業税	39,253千円
退職給付引当金	25,128千円
一括償却資産	6,339千円
繰延資産	5,951千円
減損損失	37,130千円
投資有価証券評価損	752千円
関係会社株式評価損	122,320千円
その他	99,623千円
繰延税金資産小計	432,546千円
評価性引当額	△123,353千円
繰延税金資産合計	309,192千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△188,622千円
固定資産圧縮積立金	△68,988千円
前払年金費用	△254,560千円
その他	△21,011千円
繰延税金負債合計	△533,183千円
繰延税金負債の純額	△223,990千円

### 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結注記表 収益認識に関する注記」に同一の内容を記載しているため注記を省略しております。

関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の 所有割合 (%)	関係内容	
						役員の 兼任等	事業上 の関係
子会社	株式会社 鎌倉ニュージャーマン	神奈川県 鎌倉市	200,000 千円	菓子製造 販売	100	当社役員 3人	資金の貸付
子会社	VISUAL HONG KONG LIMITED	中華人民共和国 香港特別行政区	200,000 香港ドル	菓子販売	100	当社役員 1人	製品の販売

会社等の名称	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
株式会社 鎌倉ニュージャーマン	資金の貸付	150,000	関係会社長期貸付金	850,000
	受取利息	8,290	—	—
VISUAL HONG KONG LIMITED	配当の受取	107,580	—	—

(注) 貸付金の利息については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

1 株当たり情報に関する注記

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 2,878円92銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 257円57銭   |